

## 会議・協議・相談等 記録簿

令和4年11月30日

- 会議名 前山小学校統合に伴う通学支援に関する意見交換会（前山小学校 PTA）
- 日時 令和4年11月29日（火）19:00～21:00
- 場所 前山小学校 体育館
- 出席者 ふるさと定住促進課 藤浦課長、足立係長  
教育総務課 足立次長、船越係長、小田  
前山小学校 PTA（29名）、認定こども園前山小学校区保護者（1名）  
保護者以外の地域住民（7名）、市議会議員（2名）、教職員（2名）
- 内容（保：保護者、地：保護者以外の地域住民、教：教育総務課、ふ：ふるさと定住促進課）

会議冒頭に資料の説明を行い、その後 PTA がグループごとに分かれて意見を集約し、協議を行った。

## 【意見等】

- ・初めて説明を受けたが、説明が少なすぎて意味がわからない。（保）
- 以前も説明会で路線バスの提案はしたが、一般の乗客と混乗になるのが専用バスとの大きな違いであるという意見が多かったので、同乗者の定期支給を提案している。（教）
- 保護者に添乗員をしろということか。（保）
- 保護者の方や地域の人を想定している。（教）
- 学校や市ではなく、全てこちらの負担となるのか。（保）
- 今も徒歩通学で見守りをお世話になっており、それと同様と考えている。（教）

## 《PTA でグループワークを実施》

- ・夏ごろに PTA で会議を開催し、同じようにグループワークを行い、専用バスに一度決定したのに、路線バス一点張りに話が変わっているのはなぜか。社会実験の話も進んでいるが、一旦路線バスの話は白紙にしてもらいたい。（保）
- ・路線バスのダイヤも、始発の早い時間に徳尾や大杉から高齢者がバス停まで行くのは負担が大きい。バス停までのデマンドタクシーも併せて利用できるような時間設定をするべきではないか。もしくは市島駅までデマンドタクシーでそこから路線バスという形でもよいと思う。今の状況では小学生も地域住民も誰も得をしない。（保）
- ・専用バスのバス停の数が多すぎる。学校の始業時間ぎりぎりになるのであれば、「ふれあいセンター」「学校」「八日市」程度でよいのではないか。（保）
- ・専用バスを希望するのは PTA の総意ではあるが、それとは別に地域の意見もあると思うので、それを今後聞かせてもらいたい。（保）
- ・子どもに一番近い立場の保護者としてずっと専用バスを希望してきた。路線バスが運行されるのに反対しているのではなく、個別に児童たちのために専用スクールバスを運行することを希望している。通学で路線バスを使用しないことで路線バスの運行がなくなっても、路線バスの運行自体を保護者が反対していたわけではないということ

議事録に残してほしい。(保)

- ・路線バスと専用バスを同時に運行することはできないのか。路線バスを運行するのであれば、経営努力をして利用者増加を目指す必要があるのに、児童を頭数として利用している状況は受け入れるわけにはいかない。(保)
- ・年内に結論を出すと言われているが、社会実験が終わっていないのに結論を出すのはおかしいのではないか。(保)
- ・児童の乗車がないと成り立たない路線バスを運行する意味があるのか、しかも医療センターに行くまでにトイレ休憩がいるような乗車時間を要するバスである。(保)
- ・専用バスから路線バスにすり替わった不信感について丹波市は重く受けとめて欲しい。(保)
- ・先に社会実験をしてその結果をもって通学バスの話をするべき。民間企業だと必ずその順番になるはずである。(保)
- ・路線バスで事故が起きた場合は民間事業者が責任をとるのか、そういった説明も何もない。(保)
- ・路線バスは業者に委託することになると思うが、税金が投入されるのに社会実験もなしで路線バスでの通学を決めようとするのは問題がある。(保)
- ・専用バスであれば、バス停は少なくできる。専用バスルート案でそのような改善がされていない。(保)
- ・児童が乗らなければ路線バスの採算がとれないのであれば、そもそも路線バスの運行はしなくてもいいと思う。(保)
- ・市からの提案はすべて後出しじゃんけんなので不信感が募っている。PTA が話し合っているのは通学支援の話であって、路線バスとは別問題である。路線バスが運行すると路線バスのバス停は使えないというのは脅しに聞こえる。(保)
- ・個人的には専用バスでも路線バスでもどちらでもいい。ただし、子どもたちには参加体験をさせてあげたい。また、保護者が安全性を主張して専用バスを希望しているが、防犯や交通安全に普段から取り組むことが大切だと思う。(保)
- ・普段はケアマネジャーとして働いているので、高齢者の交通手段には興味があり、路線バスが運行されるのは歓迎する。ただし、利便性を考慮すると高齢者には厳しいと思う。デマンドタクシーが定期的に利用されてしまうと、一定の時間、路線バスの1便しか町内を走らなくなるので、商売をされている方に影響が出るのではないかと心配している。(保)
- ・専用バスと路線バス両方を走らせて専用バスに乗り遅れたら路線バスに乗り、もしくはデマンドタクシーを使うこともできると思う。いろいろな選択肢の中から考えていけばいいと思う。いろいろな選択が今後の地域づくりに大きなポイントになってくるので、この場で決定するのは非常に荷が重い、子どもを学校に預けている保護者と

しては専用バスを希望する。(保)

- ・社会実験はどのようなテーマで実施されるのかがわからない。一日に何人乗車したら採算が取れるのかという基準の説明がない。
  - ・統合準備委員会で最終的には決定されるが、通学方法について直接関係のない前山地域以外の委員も含めて多数決をとって専用バスにならないという結果になるのは困る。  
(保)
- 竹田・前山地域部会での決定を統合準備委員会で承認するため、路線バスか専用バスかの多数決にはならない。(教)
- ・もっと保護者に寄り添ってほしい。前山小と竹田小の統合がよかったかどうかについては、最初のイメージがすごく大切だと思う。これだけ反対の声が多いのに路線バスになってしまった場合、地域で話し合っても結局は市の話が通るのであれば、地域の結束力が損なわれてしまう。(保)
  - ・先日、斎藤知事の話を見ると県庁舎建て替えをするのではなく、中小企業振興や学校に予算を回す判断をされた。丹波市も市島庁舎の建て替えが予定されているが、建て替えを行うのではなく、ライフピアいちじまを使用してもらい、その浮いた予算を専用スクールバスに充ててほしい。また、統合後の前山小学校も活用し、地域にお金が回るような形をとってほしい(保)。
  - ・路線バスだと乗り換えなしで医療センターにいけることにどれだけの需要があるのか。  
(保)
  - ・朝の9時まではスクールバスとして運行できないか。大型路線バス車両をスクールバスとして使えたら1便で送迎が可能になる。(保)
  - ・市がアリバイ作りで必死になっているのがわかる。(保)
  - ・バス車両を使いまわすなどいろいろなやり方があるはず。建設的な提案が全くされていない。(保)

《上記意見に対して、教育総務課とふるさと定住促進課より回答》

- ・一旦は専用バスに決まっていたのは事実である。ただし、社会実験の実施など事情が変わってきた中で、統合準備委員からも再度検討ができないかという意見をいただいたため、現在の状況がある。(教)
- ・基幹交通である電車と路線バスがない空白地をデマンドタクシーで補うということを市の地域公共交通活性化協議会で決定し、運行されている。デマンドタクシーの充実という意見が出たが、基幹交通のベースを崩さないようにしながら、公共交通を充実していきたいと考えている。(ふ)
- ・学校統合を行う際は、まず路線バスの活用ができないか検討することを方針としている。これは既存路線だけでなく、新たに路線を設けることも含まれている。今回の統合は場所が竹田小への統合であったため、路線バスを使用した通学が可能であるので、通学支援方法として路線バスを提案させていただいた。一度専用バスで決定がされているが、その後

に今回の社会実験が決定され、発表された経緯がある。当初から市島地域の公共交通を充実させたいという考えは持っていたが、各交通事業者との関係の中で発表できなかった経緯がある。この事については情報が大変少なかったことは申し訳なく思っている。(ふ)

- ・市島地域の方からは乗り継ぎが無く、市の中心部に直行できる交通機関を望む声が多く寄せられており、町域間を越えたデマントクシーの運行をしてほしいという意見もあったが、それは先ほどの説明のとおり実現は難しいので、今回直行できる路線バスを提案している。また、当初は乗車人数が予想できなかったため、小さい車両を使用することも想定していたが、今回学校の統合で、通学支援と併せて協議ができないかということで提案をしている。(ふ)
- ・社会実験は最短で到着できるダイヤでの運行を想定しているが、他の交通機関との接続などを考慮し、変更がされる可能性がある。また、以前から中心部への直行便を望む声は寄せられていたが、実際の需要を正確に把握することができないため、今回の社会実験を実施することが地域公共交通活性化協議会で決められており、その結果を見て当該路線を運行するかどうかは決定される予定である。(ふ)
- ・同じ路線の中でスクールバスのみで使用する路線が設けられないかという意見については、物理的には可能だが、別の事業になってしまうので、採算を取ることが難しいことも予想される。(ふ)
- ・赤字路線が予想される場合でも、市として維持をしていくことが必要と考える路線には補助金を出して維持をしていく。(ふ)

《教育総務課とふるさと定住促進課からの回答を受け、改めて保護者から質疑を受け付けた》

- ・路線バスの需要が多いか少ないかの判断基準はどの程度か。(保)
  - 平均乗車密度という基準があり、そこから判断していく。最低でも市内路線で乗車密度が低い路線と同程度の乗車人数がないと路線維持は難しくなっていく。(ふ)
  - さくらを使ったり無理やり乗車人数を多く見せるようなことはやめてほしい。(保)
  - チラシや広報などでお知らせは行うが、そのようなことはもちろん行わない。(ふ)
- ・医療センターに向かうことを謳っているが、そんなに多くの高齢者が乗車するとは思えない。市島町内にも診療所がある。その考え方がおかしい。(保)
  - 医療センターだけでなく、沿線の開業医への通院も想定している。電車に乗り換えることができれば安く早く到着することができるが、乗り換えが負担になる方もいるので、そういった方にも寄り添う必要があり、直行便としての需要もある程度あると考えている。(ふ)
- ・社会実験を行うのであれば、元々需要はあったはずである。それなのに乗っていないという結果であれば、そもそも誰の声で需要があったと判断したのか疑問が残る。(保)
  - アンケートをとると市内に直接行く交通手段を設けてほしいという声が寄せられている。(保)
- ・それだけ路線バスを希望する声があるのなら社会実験は長期でも短期でも恐らく結果が同じなので長期で行う必要性が理解できない。(保)
  - 路線バスがあるなら交通機関を変えようとする人たちの需要はある程度把握できるが、

路線バスがあるなら受診する医療機関を変えようという需要は、この短期間では把握できない（ふ）

- ・社会実験を行っても需要が無かった場合はどうなるのか。（保）
- 児童が通学で利用するのであれば、必要な路線として維持していく。（ふ）
- そうであればそもそも社会実験は必要ないのではないか。（保）
- 通学支援と社会実験は別で協議が進んでいた。当初は前山地域の谷の中へ路線バスを運行することは想定していなかったが、通学支援としての路線バスの運行が可能になったため、今回の経路を提案している。当初は石原からジャンボタクシーを運行して市の中心部へ送迎する手段も検討していた。（ふ）
- 路線バスの通学支援は保護者は誰一人望んでいなかった。なぜそれが社会実験とつなぎ合わせてアリバイ作りに利用されるのか。（保）
  
- ・PTA ではシートベルトもあり、全員座れるため、安全性の面から専用スクールバスに決定した。車内で押された場合のけがなどはだれが責任をとるのか。専用バスと路線バスを一緒に考えようとしているのがそもそもおかしい。（保）
- 検討いただいた結果、専用スクールバスに決定されたが、その後路線バスの状況が変わったため、通学支援と路線バスの運行を別物としては考えられないので、再度協議をさせていただいている。路線バスに決まったわけではなく路線バスありきでも進んでいない。大半の方が専用バスを希望していることも承知はしているが、それぞれに良さがあるので、検討を行っていただき、保護者や地域の方の意見を統合準備委員会に持ち寄ってもらい、最終決定をいただきたいと考えている。（教）
  
- ・専用バスか路線バスの選択ができるという説明なのに、なぜ、路線バスの話ばかりになるのか。専用バスもスクールバスも両方運行したらいいではないか。（保）
- 通学支援についてはまず路線バスを活用できないかということを中心に協議を進める方針である。（ふ）
- 専用バスと路線バスをそれぞれ別に運行する場合は、路線バスを将来的に維持していくことが難しいことも予想される。（ふ）

#### 《当日同席した保護者以外の地域の方の意見を伺った》

- ・今までの協議経過をすべて確認して話を聞いたが、専用バスのほうが安全であるのは明らかなのに、何故路線バスが候補に入ってきているのかが理解できない。専用バスは事故が起きることも想定して設備が整えられると思うが、路線バスの場合はその義務がない。誰が責任を持つのかもわからない。（地）
  
- ・小さいバスを購入してできるだけ家の近くまで送迎できるようにしてほしい。（地）
  
- ・ふれあいセンターではなく、徳尾の奥まで入らないと、奥の地域の古民家にIターンで住みたいと言っている人たちも来てくれない。鴨阪の奥も絶対に転回できる。（地）
  
- ・デマンドタクシーを強調しているが、町内しか行けないのを改善してほしい。（地）
- デマンドタクシーはあくまで基幹交通を補う手段という位置付けであるので、町内のみの運行となることはご理解いただきたい。その代わり基幹交通の充実を検討しているところである。（ふ）
  
- ・路線バスに賛成していたが、保護者の意見を聞くと、地域の利便性と通学とは分けて考

えないといけないと思った。(地)

- ・若い人も忙しく、送迎が難しいので、今後路線バスも必要になると思う。(地)
  - ・閉校後の校舎の利活用も路線バスがあるかないかでイメージが大きく変わってくるかもしれない。(地)
  - ・専用バスにして前山小学校に全員集まって通学したらいい。そして路線バスは別に運行してほしい。(地)
  - ・路線バスありきで話が進んでいる。当初から専用バスを希望している保護者の意見を叶えてあげてほしい。(地)
  - ・認定こども園保護者やPTA で一緒になる竹田小保護者の意見も聞いてあげてほしい。(地)
  - ・ノンステップバスを強調されているが、試乗会のバスは車高が低くなるバスではなくスロープがついているタイプだったので、通常のノンステップと同列に扱うのはやめてほしい。(保)
- 車両はほぼ同じで車高も下がる。都会は歩道の高さがバスに合わせて作られている場合が多いのでスロープを使用しない。高さが合わない時に使うためにスロープが付いている。

前山小学校統合に伴う通学支援に係る調整会議 次第

日時：令和4年12月29日（火）

場所：前山小学校 会議室

1. 開 会

2. 統合後の通学支援

（1）路線バスについて（P1～P3）

（2）専用スクールバスについて（P4～P5）

3. 意見交換

4. その他

5. 閉 会









## 前山～竹田間バス通学想定ルート

バス停位置	区間距離 km	トータル km	想定時間 分		想定ダイヤ						
					朝↓	朝臨時↓	夕1↑	↓	夕2↑	臨時↑	
					始		⇒	↓	終		
前山ふれあいセンター		0.00		0:00	7:32	9:32	15:11	15:35	16:11	12:41	
	0.44			0:01	↓	↓	↑	↓	↑	↑	
谷上		0.44		0:01	7:33	9:33	15:10	15:36	16:10	12:40	
	0.71			0:01	↓	↓	↑	↓	↑	↑	
前山郵便局前(今中)		1.15		0:02	7:34	9:34	15:09	15:37	16:09	12:39	
	0.77			0:01	↓	↓	↑	↓	↑	↑	
宮ノ下		1.92		0:03	7:35	9:35	15:08	15:38	16:08	12:38	
	0.37			0:01	↓	↓	↑	↓	↑	↑	
段宿		2.29		0:04	7:36	9:36	15:07	15:39	16:07	12:37	
	0.45			0:02	↓	↓	↑	↓	↑	↑	
八日市		2.74		0:06	7:38	9:38	15:05	15:41	16:05	12:35	
	0.70			0:01	↓	↓	↑	↓	↑	↑	
十市		3.44		0:07	7:39	9:39	15:04	15:42	16:04	12:34	
	0.30			0:00	↓	↓	↑	↓	↑	↑	
安下		3.74		0:07	7:39	9:39	15:04	15:42	16:04	12:34	
	0.54			0:01	↓	↓	↑	↓	↑	↑	
大森		4.28		0:08	7:40	9:40	15:03	15:43	16:03	12:33	
	0.30			0:00	↓	↓	↑	↓	↑	↑	
新道具		4.58		0:08	7:40	9:40	15:03	15:43	16:03	12:33	
	0.33			0:01	↓	↓	↑	↓	↑	↑	
丹波竹田駅		4.90		0:09	7:41	9:41	15:02	15:44	16:02	12:32	
	0.56			0:02	↓	↓	↑	↓	↑	↑	
竹田小学校		5.46		0:02	0:13	7:43	9:43	15:00	15:46	16:00	12:30

## (1) 路線バスについて

### 1. はじめに

専用スクールバスと路線バスの大きな違いは、児童のみの乗車か不特定多数が乗車できるかが大きな違いであって、安全性に違いはなく、走行ルート、バス停も概ね同じです。

### 2. 説明会での路線バスに対する意見

- (1) 乗り過ごしてしまった時が不安
- (2) 運転手以外に児童の人数を把握するなどしてもらえる添乗員の配置
- (3) 児童以外に不特定多数が乗車するため、思いを訴える場合があるのではないか。 等

上記のような心配や不安を持っておられる保護者がおられます。

### 2. 対応方針

保護者の心配や不安を一定解消すべく以下の対応を行います。

- (1) 地域や保護者の見守りができるよう定期券を発行します。定期券は貸与ではなく、市教委で保管することとし、見守りにあたる方に対し、証明書を発行し乗車できる環境を整備します。

なお、見守りについては、他の地域と同様に地域や保護者で人選を含め対応いただくこととします。

- (2) 見守りの方が登校時に竹田小学校に下車してから、前山ふれあいセンターに帰る便がないことや下校時は竹田小学校に向かう便がないことから、デマンドタクシーを活用することとします。




なお、デマンドタクシーは木曜日の運行はありません。

見守りの方については、地域や保護者で人選を含め対応

### 3. イメージ



# 専用スクールバス想定ルート

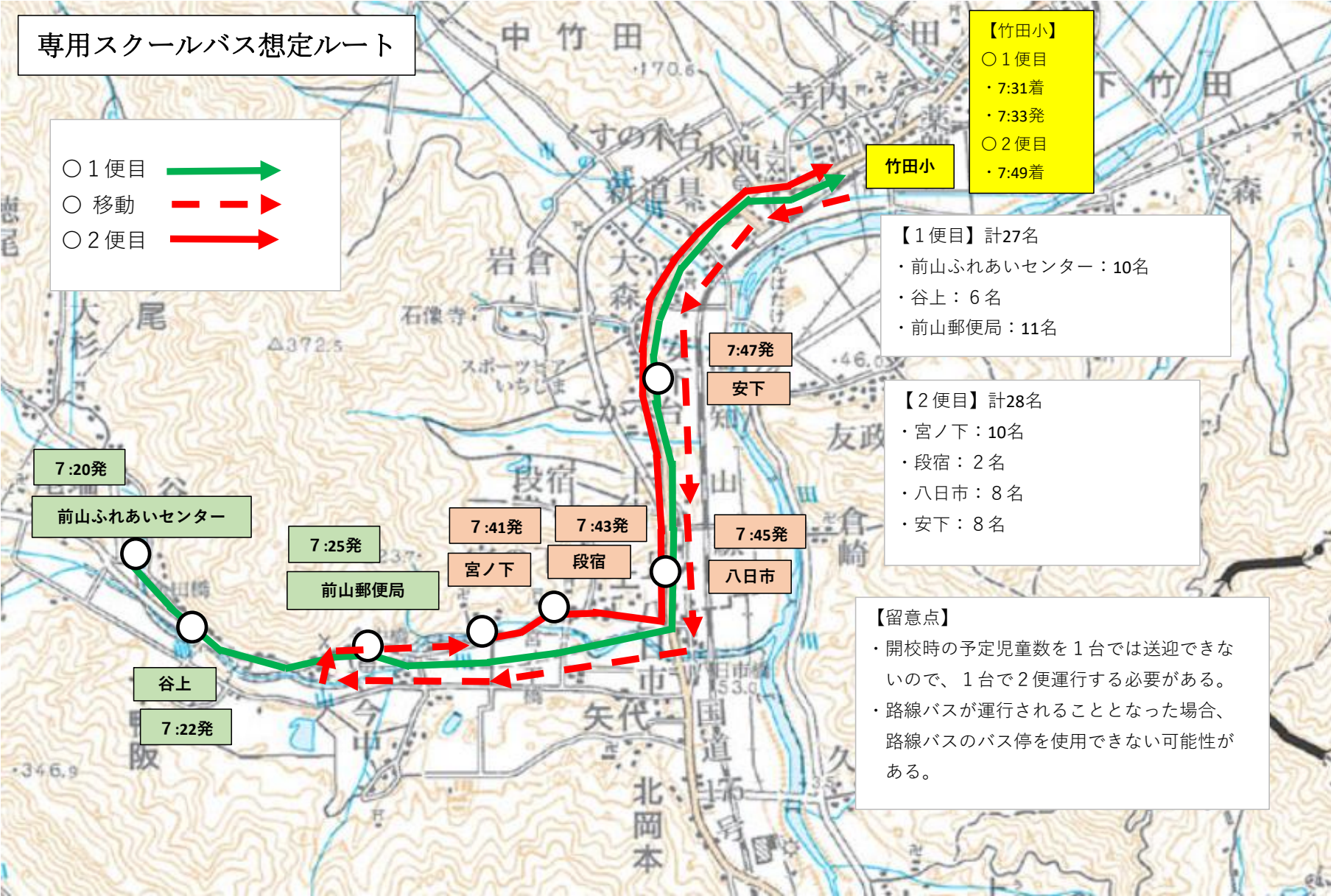
- 1便目 
- 移動 
- 2便目 

【竹田小】  
○ 1便目  
・ 7:31着  
・ 7:33発  
○ 2便目  
・ 7:49着

【1便目】計27名  
・ 前山ふれあいセンター：10名  
・ 谷上：6名  
・ 前山郵便局：11名

【2便目】計28名  
・ 宮ノ下：10名  
・ 段宿：2名  
・ 八日市：8名  
・ 安下：8名

【留意点】  
・ 開校時の予定児童数を1台では送迎できないので、1台で2便運行する必要がある。  
・ 路線バスが運行されることとなった場合、路線バスのバス停を使用できない可能性がある。



【バス乗車人数・発車時時間試算】		人数	発車時間	移動所要時間	乗降時間
1便	前山ふれあいセンター	10	7:20		
	谷上	6	7:22	1	1
	前山郵便局 (小学校?)	11	7:25	2	1
	竹田小		7:33	6	2
計		27		9	4
2便	宮ノ下	10	7:41	7	1
	段宿	2	7:43	1	1
	八日市	8	7:45	1	1
	十市 (十市児童は安下へ)				
	安下	8	7:47	2	1
	竹田小		7:49	2	
計		28		13	4
総計		55		22	8
				移動+乗降時間	30